

U.S. Indicators

マクロ経済指標レポート

米国 鉱工業生産は緩やかな拡大(05年3月鉱工業生産)

発表日：05年4月15日(金)

～製造業の拡大ペース鈍化～

(No.U1-008)

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001、4518 : seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

鉱工業生産 (Industrial Production and Capacity Utilization)

鉱工業生産			製造業 (NAICS)						設備稼働率		生産能力
			製造業 (NAICS)	鉱業	公益	ハイテク 関連	除ハイテク 関連	自動車関連		製造業 (NAICS)	
04/03	03	(+32)	+02	00	39	+13	+01	13	+77.4	+75.4	+0.1
04/04	+05	(+4.7)	+0.6	+0.0	+0.2	+1.7	+0.6	0.3	+77.7	+75.8	+0.1
04/05	+0.7	(+5.4)	+0.6	0.6	+2.6	+2.4	+0.5	1.5	+78.2	+76.1	+0.1
04/06	0.4	(+4.7)	0.1	0.5	2.0	+1.2	0.3	1.8	+77.8	+76.0	+0.1
04/07	+0.7	(+4.8)	+0.8	+1.2	0.4	+1.2	+0.8	0.4	+78.3	+76.5	+0.1
04/08	+0.1	(+5.0)	+0.3	0.4	1.9	+1.0	+0.3	+3.4	+78.3	+76.6	+0.1
04/09	0.3	(+3.9)	0.4	2.7	+3.3	+0.6	0.4	1.2	+78.0	+76.3	+0.1
04/10	+0.8	(+4.6)	+1.1	0.4	0.4	+0.9	+1.0	+3.5	+78.5	+77.0	+0.1
04/11	+0.3	(+3.8)	+0.1	+1.8	+0.5	+1.8	0.0	0.6	+78.7	+77.0	+0.1
04/12	+0.8	(+4.4)	+0.5	+0.9	+3.1	+1.6	+0.4	+1.2	+79.2	+77.3	+0.1
05/01	+0.0	(+4.2)	+0.3	0.1	2.3	+3.4	+0.2	1.6	+79.2	+77.4	+0.1
05/02	+0.2	(+3.3)	+0.4	+0.4	1.1	+1.7	+0.2	+5.2	+79.3	+77.6	+0.1
05/03	+0.3	(+3.9)	0.2	+0.7	+3.6	+0.9	0.2	3.6	+79.4	+77.4	+0.1

(出所)FRB

(注)数字は前月比、但しカッコ内は前年同月比。

**製造業生産が前月比 0.2%と減少に
転じたものの鉱工業
生産は前月比 +
0.3%に加速**

05年3月の鉱工業生産は、前月比+0.3%と2月の同+0.2%から加速した。市場予想(同+0.3%)どおりとなったが、1、2月合計で0.2%ポイント下方改定されており実質的には予想を下回る内容となった。電力等公益が増加に転じ、鉱業がプラス幅を拡大したものの製造業が減少に転じた。公益は気温が例年よりも低かったことに伴い前月比+36%上昇した。鉱業は好調な需要によって同+0.7%となった。生産の90%を占める製造業(NAICS)は、ハイテク関連が鈍化したことに加え、自動車部門の生産が減少に転じたことによって同-0.2%とマイナスとなった(1、2月合計で0.3%ポイント下方改定)。拡大した業種数も製造業19業種中8業種と2月の7業種から増加したものの、大多数の業種で減少しており拡大の勢いが低下している。

基調を示す3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率では、鉱工業生産が2月の+5.5%から+3.6%、製造業生産が2月の+4.9%から+3.3%へと低下しており、共にモメンタムは鈍化している。

**稼働率は79.4%と
前月(79.3%に下
方改定)から上昇**

3月の稼働率は生産能力が前月比+0.1%、生産が同+0.3%増加したため79.4%と2月の79.3%から上昇したものの、生産の過去の数字が下方改定されたことから、市場予想の79.6%を下回った。製造業は、2月の77.6%から3月には77.4%に低下した。今後、生産が緩やかながらも拡大が続くとみられることから、余剰生産能力の減少が着実に続くと見込まれ、増産投資が堅調に推移すると予想される。

増産投資は既に拡大に転じていることから、今後生産能力の拡大ペースが加速し稼働率の上昇ペースが抑制されるとみられ、利上げペースの加速要因にはなり難いと考えられる。

**製造業では19業種
中8業種での生産
拡大にとどまった**

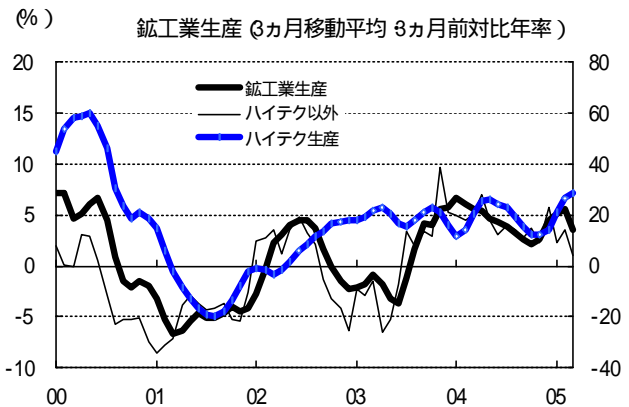
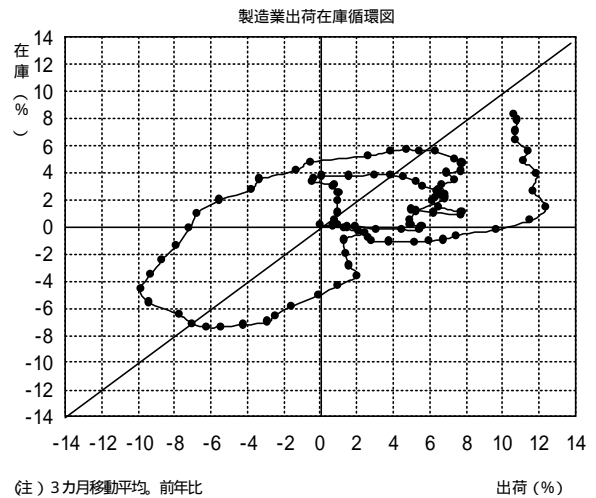
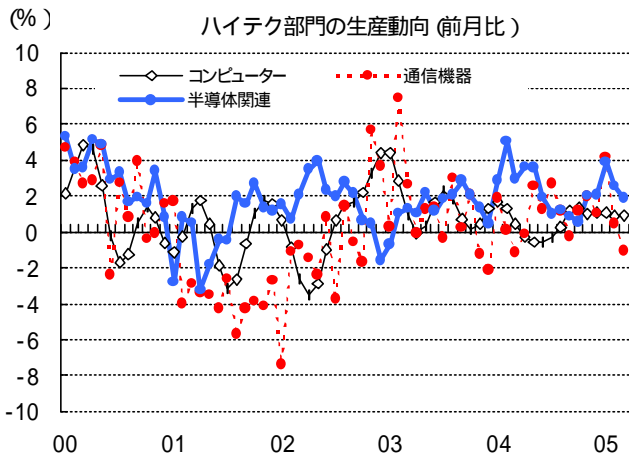
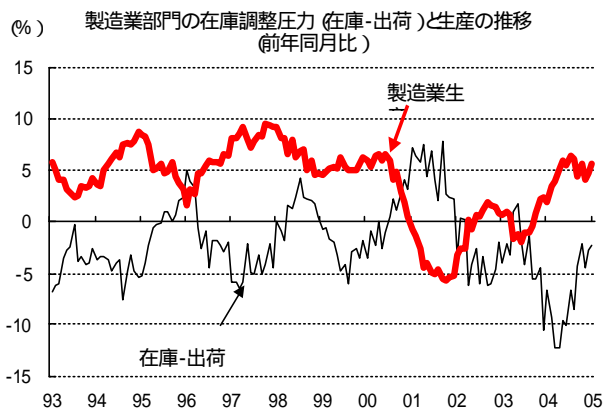
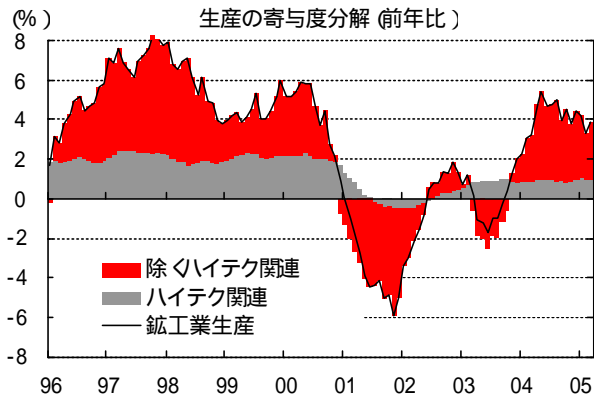
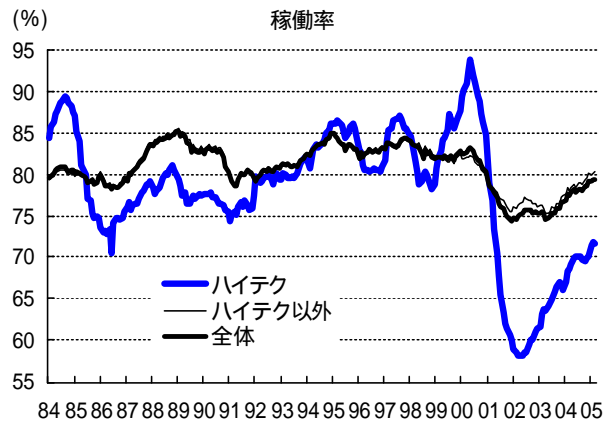
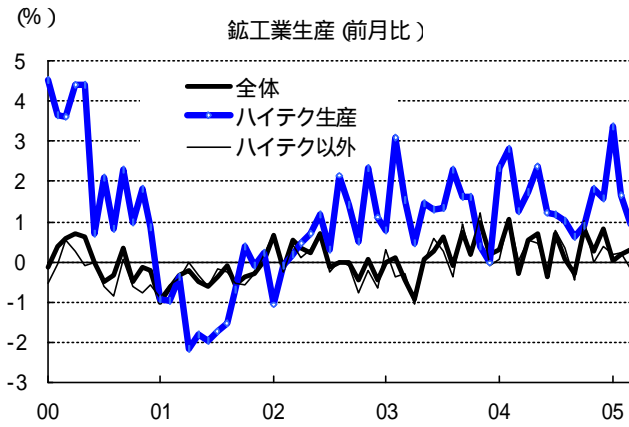
業種別では、鉱業は好調な需要を映じて前月比+0.7%とプラス基調を維持した。公益は3月の気温が例年よりも低かったことから電力使用量が増加し同+3.6%と上昇した。製造業は設備投資関連、素材関連の上昇ペースが加速したものの、ハイテク関連の伸び鈍化、自動車の減少により同-0.2%減少した。自動車関連は、完成車が同-6.2%、自動車部品が同-1.7%とともに低下した。ハイテク関連は、コンピューター生産の堅調が続いた一方、半導体の拡大ペースが鈍化、通信機器の減少により同+0.9%(2月同+1.7%)と減速した。コンピューター・電子機器、航空宇宙・その他輸送機器、一般機械が上昇したが、自動車、アパレル、化学等が減少した。

需要段階・財別の動向をみると、最終財・非産業財(全体の57.99%)では、情報機器や産業機器といった企業設備が加速、部品財が増加に転じたものの、建設財、消費財が減少に転じたため、全体は前月比+0.2%と鈍化した。一方、原材料財(全体の42.01%)では、非耐久財向けの減少幅が縮小したものの耐久財向けが鈍化したため、非エネルギー向けが同+0.1%と前月と変わらずとなった。しかし、エネルギー向けがプラスに転じたため、原材料財は同+0.4%と加速した。

**4~6月期には前期
比で拡大ペース鈍化
が見込まれる**

最終需要の動向では、個人消費は雇用・所得の拡大を背景に2005年1~3月期以降も同+3%台の伸びが予想される。加えて、設備投資は減価償却率の30%から50%への引き上げ措置が04年末で終了したものの、これまでの堅調な成長による期待成長率の高まり、キャッシュフローの拡大、株価の上昇、信用スプレッドの縮小、2万5千ドルから10万ドルに拡大された中小企業の設備投資償却枠が05年末まで続くことを背景に、好調を維持すると見込まれる。もっとも、外需に関しては輸出がドル安の押し上げ効果が期待できるものの貿易相手国の需要の伸びが鈍化していることから、高い伸びは期待できない。一方、輸入は国内需要の堅調を背景に高い伸びが見込まれ、成長率を押し下げよう。

米景気の減速に伴い4~6月期の鉱工業生産は、拡大ペースが鈍化しよう。年後半には、世界的なハイテク部門の在庫調整の終了や日欧の景気拡大ペース加速に伴う輸出の増加が期待できるため、生産の拡大ペース加速が予想される。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。